

製品名: カスパーゼ-1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21189**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:45kD;Observed MW:45kD

抗原情報

遺伝子名	CASP1
別名	IL1BC IL1BCE
遺伝子 ID	834.0
SwissProt ID	P29466
免疫原	ヒトカスパーゼ 1 の組み換えタンパク質

背景

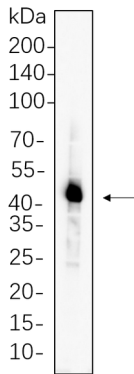
細胞局在: 細胞質。カスパーゼ 1 (CASP1) ホモサピエンス この遺伝子は、システインアスパラギン酸プロテアーゼ (カスパーゼ)

ファミリーのメンバーであるタンパク質をコードしています。カスパーゼの連続的な活性化は、細胞のアポトーシス実行段階で中心的な役割を果たします。カスパーゼは不活性なプロ酵素として存在し、保存されたアスパラギン酸残基でタンパク質分解処理を受けて大小2つのサブユニットを生成します。これらのサブユニットは二量体化して活性酵素を形成します。この遺伝子は、炎症、敗血症性ショック、創傷治癒などのプロセスに関与するサイトカインであるインターロイキン-1の不活性前駆体をタンパク質分解的に切断し、活性化する能力があることから同定されました。この遺伝子は細胞のアポトーシスを誘導することが示されており、さまざまな発達段階で機能する可能性があります。マウスにおける同様の遺伝子の研究では、ハンチントン病の病因における役割が示唆されています。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする転写産物変異体が生じる。[RefSeq 提供、2012年3月]

研究分野

-

画像データ



THP-1細胞ライセートを4~20% SDS-PAGEで分離し、膜をカスパーゼ-1ウサギモノクローナル抗体(1:1000)でブロットニングした。抗体の検出にはHRP標識ヤギ抗ウサギIgG(H+L)抗体を用いた。